

## 式辞（3学期終業式）

日差しや吹いている風にも春を感じるようになり、年度替わりの時期がやってまいりました。皆さんはどういった所で、またはどういったことで春を感じていますか。五感の感度を上げて大いに春を感じてほしいと思います。

思い起こせば、この1年間はゆっくりとしか学校の復旧が進みませんでした。その点、皆さんには申し訳なく思っています。県には早期修繕を要望していますが、人手不足・資材不足により現状の通りです。しかし、皆さんはしっかり勉強や部活動、ゆめかなプロジェクトなどに前向きに取り組み、大きな成果を挙げましたし、卒業生も頑張っ、素晴らしい進路先を開拓しました。大変よく頑張ったと思います。

また、今年度も同窓生の先輩諸氏や全国から多くの支援を頂きました。特に、兵庫県や東北などこれまで大災害を経験している方からの支援は心強かったです。皆さんには、これらの方々に感謝するとともに、今後どこかで災害が起こった際には皆さんが手を差し伸べるようお願いいたします。次の人達にもらった恩を返しましょう。

さて、本日で令和6年度3学期が終了します。先日の成績会議では、ほとんどの人の1年間の努力が評価され、取り敢えず全員の進級が決まりました。

新3年生は最上級生として1、2年生に手本を示さなくてはなりませんし、自分の進路も切り開かなくてはなりません。3年生は大車輪の働きなのです。しかし、心配しないで下さい。皆さんには偉大な先輩と立派な先生方が付いています。特に、3月3日に卒業した先輩方は真摯に進路決定や部活動に向き合い、頑張っ結果を残しました。加えて、国公立中期後期試験で最後の最後まで頑張り、合格を果たした人もいました。彼らの背中を見てきた皆さん方なら、大丈夫です。頑張っ下さい。

次に、新2年生です。新2年生は中堅としてこの学校をもり立てていく役割を担います。生徒会や部活動では先輩を補助し、新入生に対しては身近な先輩として指導していくこととなります。また、進路に関しても2年生のうちから受験勉強をスタートした人と3年になってからスタートした人では、納得する進路決定をした人の割合に有意な差があります。中だるみしている暇なんかありません。期待しています。

今日は皆さんに二つのこととお話ししようと思います。一つ目は「格好を付ける」と「格好が付く」についてです。「格好を付ける」とは髪や服装が派手であったり、仕草がキザであったりしたときに「あいつは格好を付けやがって」というふう、ネガティブに使われます。一方、「格好が付く」は部活動で初心者が良いプレーをするようになったときに「格好が付いてきた」と言われます。また、私も校長になってしばらくして言動がそれらしくなった時に先輩方から「格好が付いてきた」と言われました。このように「格好が付く」はポジティブに使われます。ですから、格好は付けるものではなく、付くものなのです。そして、格好が付いた状態を「格好いい」というのです。得てして、格好を付ける人はそれをもって人目を引こうとし、努力はしませんので、格好が付きません。皆さんには外見だけを目立たせるのではなく、しっかり努力するとともに内面も磨き、一流のプレーヤーや一流の受験生を目指して欲しいと思っています。

次に「面倒くさい」について話します。私はかなりの面倒くさがりです。何でも、「これはいつでもできる」とか、「これはせんでもいいやろ」とか言って、先延ばしにしたりやらなかったりすることがありました。しかし、そんな経験を重ねるうちに、ちょっとした細かい面倒くさいを放置すると、なおさら面倒くさいことになってしまうことに気づきました。例えば、毎日の勉強を「今日は疲れているから」とか、「今日は忙しいから」とか言ってサボったとします。一日くらいサボっても何も痛くはありませんが、この手の人は一回休むと「一日くらい」と言って何日も休んでしまします。確かに一日くらい休んでも痛くも痒くもないのですが、これを繰り返していると、最後の最後には不合格通知がやってきます。そうすると泣いたりわめいたり大変面倒くさいことにな

るのです。昨年度の2学期終業式でお話ししたように、大概、大事なことは面倒なことが多いですので、そうならないように日々の努力を面倒くさがらずに続けてください。私はそれに気づいて以来、大きな面倒を回避するために、「いつでもできることは今でもできる」と自分に言い聞かせ、マメにそして直ぐに何でもやるようになりました。ちょっと皮肉なお話ですが、皆さんも実践してみてください。

以上、来年度も皆さんが前向きに頑張ってくれることを期待して、3学期終業式式辞を終わります。

令和7年3月24日

石川県立飯田高等学校長 角 秀明